

Principal Correspondence

サンタクロースが訪れる小学校

リリーベール小学校の先生方は本気でサンタクロースの存在を信じています。
児童の皆さんも信じていますよね！！
だって創立以来17年間12月になると毎年やってくるのですから
今年も公式声明を下記の通り発表します

リリーベール公式声明



サンタクロースは本当にいます
サンタクロースが人々の善意の象徴とするなら
彼はみんなの心のなかに確かにいます

今年も1年間、コロナウイルスに負けず
元気に大きくなったあなたには“特別に”
クリスマスアッセンブリーの日に会いにくるでしょう

今年1年の成長と、あなたを見守り
慈しんでくれた人々に感謝し
来年はもっと優しく強い子になりますように…
願いをこめて

クリスマスは、例えキリスト教徒でなくても、大人にも、子どもにとっても
一年の終わりの最も楽しい行事です。
夕暮れの雑踏、街の飾り、光り輝くイルミネーション、歳末助け合いの声。
子どもたちは、サンタクロースのプレゼントに心躍らせ、大人は、あたりま
えの幸せに感謝し、一年間の無事と成長を祝うとき……。

一年の終わりに、リリーベールでは**クリスマスアッセンブリー**で皆様に至極
の時間を提供します。

Principal Correspondence

クリスマスは前を向いてリセットするとき

昔の人

「人生の中で成長のために人は、三つの苦勞をしたほうが良い」と説いています。

すなわち「愛情の苦勞」「お金の苦勞」「時間の苦勞」です。

誰もそんな苦勞を、買ってまでする必要はないのですが、人生の中では多かれ少なかれ誰にも「親の愛に恵まれなかった」とか「貧乏に育った」とか「生きるのに忙しくて芸術なんかに触れられなかった」などなど、つらい思いや困難を経験することがあるものです。

バーブラ・ストライサンド

「子どもの時につらい思いをした人は、その分だけ大人になって味わい深い人になれるのよ。」

私の愛する？歌手であり女優のバーブラ・ストライサンド（おそらく米国トップ3に入るスターです。代表作「追憶」「スター誕生」）は、自身の父親との死別、貧困などの経験からこう述べています。確かにそう思います。

私にはたまたま全国に経営者やリーダーと呼ばれる知人がたくさんいるのですが、様々な苦勞をして一代で今の地位を築いたような人たちの方が人情味もあり尊敬できる人が多いのです。

一方で留学経験もあるサラブレッドといわれるような大会社の御曹司・・・ナイスガイで、スマートでカッコいいのですが、他人が苦境に陥るとスーッといなくなるような？いざとなると冷たさを感じる人は結構います（無論、皆が皆そうだという訳ではありません）。そういう人は、良い時には輝いているのですが困った時（逆境）に弱い。手を差し延べてくれる友人は少ないかも知れません。

mike

「困難は成長のための試練。人生に無駄な事はないのです。」



できれば味わい深い人になりたいものです。そのためには人生は全てを前向きに考えることです。

目の前の課題から逃げずに前向きに頑張れば（頑張りすぎてはいけませんが）必ずどんな経験からも学べる事を、ポジティブに幼少の頃から知ってもらいたいと思います。

